

## オレゴン 高性能ヘルメット（品番：562413） 性能、取扱等の説明書

### 目次：

- ① 組み立て方法
- ② イヤーマフ
- ③ ユーザーのための重要な注意事項

### ①組み立て方法：

1. 箱から中身を全て取り出します。

2. イヤーマフ（聴力保護用耳あて）の取り付け

イヤーマフをヘルメット外側から溝に差し込みます(図 1)。カチッと音がするまで差し込んでください。取付けや取外しの際には、イヤーマフが必ず横向きになるようにしてください。

3. イヤーマフの使用法

ヘルメットに取り付けたイヤーマフは、後述のバイザーアセンブリを取り付けた状態で 180 度回転させることができます。イヤーマフは、耳を完全に覆うようにセットしてください(図 2)。カップの高さを手で調整し(図 3, 4)、しっかりと耳にフィットさせます。クッションから耳の周りへの圧力は、必ず均等になるようにしてください。イヤーマフの機能が最大限に発揮できるように、髪の毛はできるだけ後ろに流して、クッションの下に入らないようにしてください。

4. フェイススクリーンの組み立て

フェイススクリーンをカーブさせ、キャリアの両側の上側ピンに、スクリーンの大きな取り付け穴をそれぞれ合わせるようにしてキャリアに取り付けます(図 5)。スクリーンは、二つの内側ホルダーの間に入れます(図 6)。このホルダーが、スクリーンをキャリアにしっかりと固定します。スクリーンの二つ目の大きな取り付け穴をキャリアの次のピンに押し込みます(図 5)。

5. バイザーのヘルメットへの取り付け

バイザーアセンブリの突き出たアームの端を、ヘルメットに取り付けたイヤーマフのジョ

イントの真下にある開口部に押し込みます(図 7)。この時に、カップが回るようにセットしてください。バイザーは、キャリアがヘルメットの頭頂部にしっかりとフィットするまで押し込みます(図 8)。スクリーンの後方に何も落ちてくることがないように、キャリアとヘルメット間に隙間がないようにセットしてください。

## 6. バイザーの使い方

バイザーは、「アップ」「ダウン」のいずれのポジションでも使用することができます。

## 7. 保管上の注意 — 重要！

林業用セット (Forestry Set) は、イヤーマフがヘルメットのシェル上に乗った状態で長期間保管しないでください。イヤーマフのクッションに損傷や変形が生じ、さらに、常時圧力がかかることで、ヘルメットのスロットが割れることもあります。

## 8. 頭に合わせた調整

ラチェットノブを、後方に引っ張ってから回してください。時計回りで緩み、反時計回りで締まります。

## 9. あご・頸部の保護 (オプション)

保護用の布を、ヘルメットに付属する3つのクリップでバイザーに取付けてください(図 9、図 10)。クリップの取付箇所は任意の3点です。

## ②イヤーマフの性能：

### 減音性能に関する数値：

周波数 (Hz)	63	125	250	500	1000	2000	4000	8000
平均減音 (db)	15.7	15.6	23.4	34.1	37.9	26.7	32.3	34.9
標準偏差 (db)	5.7	3.7	4.7	5.1	3.1	3.2	2.9	4.9
音響性能	H (db)	26db	M (db)	26	L (db)	19	SNR (db)	27

## EN352-3 に則った試験

### ③ユーザーのための重要な注意事項

#### 1. 警告

いかなる保護用品も、怪我を 100%防ぐことはできません。そして保護性能は、さまざまな要素（例：適切にフィットしているか、手入れは十分か）により変わります。

フェイススクリーンによる顔や目の保護性能にも限界がありますので、目を怪我するリスクがある状況では、必ず目を保護するものを着けてください。

目の保護用品として、EN166 規格に準拠するゴーグルまたは保護メガネをフェイススクリーンの下に着けるようにしましょう。

フェイススクリーンは、小さな粒子や小型の木片や砂といった軽い衝撃から顔面を保護し、それらからの補助的な目の保護を行います。

フェイススクリーンは破損することもあります。そして機械の部品や砥石車や研磨ディスクの破片、爆破装置、チェーンソー等による強い衝撃から顔面を保護することはできません。

従って、こうした衝撃にさらされる可能性がある場合は、必ずマシンガードその他の工学的手段を用いてください。

フェイススクリーンに亀裂や腐食が生じると、視界が悪くなり、更に衝撃からの保護力も大きく損なわれることがあります。ご使用前には、必ずヘルメットと各部分が完全な状態かどうか（視認性に問題がないかどうか）を確認してください。損傷のある、または何らかの形で改造されているヘルメットは使用しないでください。

ヘルメットの着用、調整、クリーニング、メンテナンスは、必ず本書の指示にしたがって行ってください。最高の性能が発揮できるように、ハーネスも適切な状態に保ちましょう。

また、最大の保護機能が得られるように、ハーネスは必ず着用者の頭部にフィットするように調整してください。

#### 2. クリーニング

ヘルメット、ハーネス、スウェットバンドは、定期的に石鹼とぬるま湯でクリーニング／消毒してください。

溶剤ベースの、または刺激性の強い洗浄剤は使用しないでください。

スウェットバンド・衛生セットは、必ず定期的に交換してください。

#### 3. 製品の損傷を避けるために

ヘルメットや各部品が、尖った物や鋭い物（ソーチェーン、金属製ツール等）、動物の糞や酸、油、溶剤等の刺激性物質など、ダメージを生じさせる可能性があるものに接触しないように注意してください。

紫外線やある種の化学物質によりヘルメットがダメージを受けることもあります。

また保護機能の低下を招く可能性がありますので、接着性のあるテープ類、塗料、溶剤、接着剤、その他の自己接着式ラベルをシェルに付けないようにしてください。

また、高温の物やその他の熱源（たき火、ストーブ等）にも接触しないように注意してください。

#### **4. 保管と輸送**

強い日光や高温にさらされる場所（例：フロントガラスや窓の後ろ）にヘルメットを保管しないようにしてください。老化を防ぐには、日が当たらない涼しい場所が最適です。なお、輸送の際には、本製品は保護材を用いて包装されます。

#### **5. 耐用年数**

一般的に、製造日から5年を超えたヘルメットは使用しない方がよいとされています。通常環境での推奨耐用年数は、約3,000時間です（ヘルメットを初めて使用する時に、日付をヘルメットに書いてください）。ある種の過酷な環境では、耐用年数がより短くなる場合もあります。

製造日は、ヘルメットのひさしの下に示されます（月／年）。

#### **6. 修理は不可能**

ヘルメットは、衝撃を吸収するように設計されていますが、激しい衝撃が加わると、シェルやハーネスが損傷するか、場合によっては壊れてしまい、その後の保護機能が低下してしまいます。こうした損傷が肉眼では見えないこともありますので、激しい衝撃を受けた場合は必ずヘルメットを交換してください。

#### **7. 交換の目安**

ヘルメットと各部品は、損傷（亀裂、色あせ等）の兆候がないかどうか、定期的にチェックしてください。肉眼で見える損傷がなくても、強い力が加わった場合は、必ず交換してください。

イヤーマフ部分、特にイヤーマフクッションは、通常の使用においても損傷することがあるため、必ず定期的に亀裂や音漏れがないかを確認してください。

ヘルメットのいかなる種類の改造も、保護機能に悪影響を及ぼす可能性がありますので、改造は絶対にしないでください。

#### **8. 全体の重量**

755g

#### **9. イヤーマフ（聴力保護用耳あて）について**

イヤーマフは、DIN EN 352-3の要件に準拠する聴力保護具です。

イヤーマフは、騒音にさらされる間ずっと着用した場合のみ、最大の保護性能を発揮しま

す。

警告：短時間でもイヤーマフを使わずに騒音にさらされると、聴力が大きく損なわれることがあります。長期的に騒音にさらされる作業者は、定期的に聴力検査を受けられることをお勧めします。

どのような聴力保護具も、聴力へのダメージを100%防ぐことはできません。そして保護性能は、さまざまな要素（例：発生する騒音の大きさや頻度）により変わります。

## 10. 認証

本ヘルメットは、EC 指令 89/686/EEC が定める要件に適合しています。

- ・ DIN EN397:2000-05 / DIN EN 352-3:2003 / DIN EN 1731 S CE に適合
- ・ CE：欧州標準化 - 承認、認証機関番号

## 11. マーケティング関連

本ヘルメットは、EC 指令 89/686/EEC に適合しています。

- ・ EN397
- ・ EN1731 S

本モデルは欧州規格 DIN EN 397 / DIN EN 1731S に適合しています。

- ・ CE

欧州標準化 - 承認、認証機関番号

- ・ OREGON® Distributor（オレゴン®ディストリビューター）
- ・ 53-62cm

ヘルメットのモデルならびにヘッドサイズ例（単位：cm）

- ・ PE/ABS

ポリエチレン製ヘルメットはリサイクル可能です。ABS（アクリロニトリル、ブタジエン、スチレン共重合合成樹脂）もリサイクルが可能です。

- ・ -30°

低温環境で使用できる設計の安全ヘルメットです。

図 1

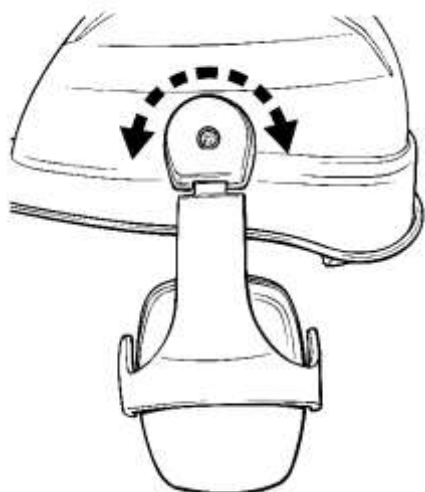


図 4



図 2



図 5

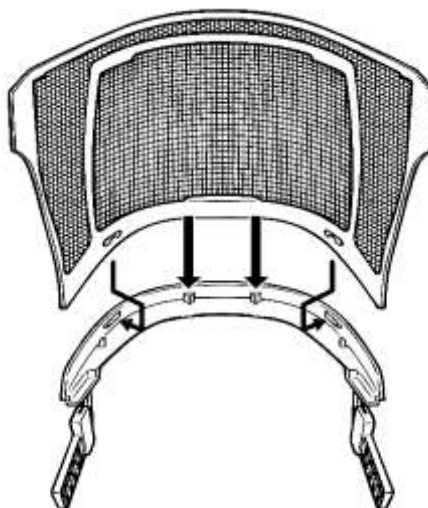


図 3

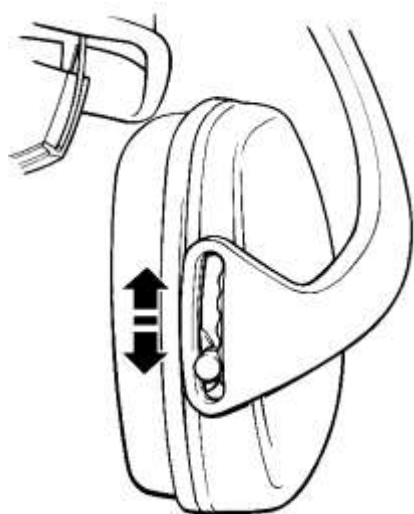


図 6

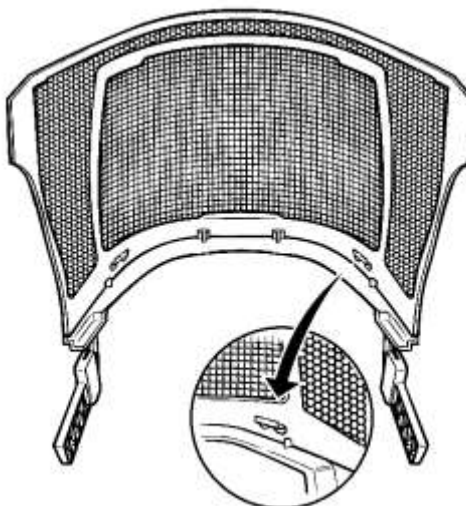


図 7

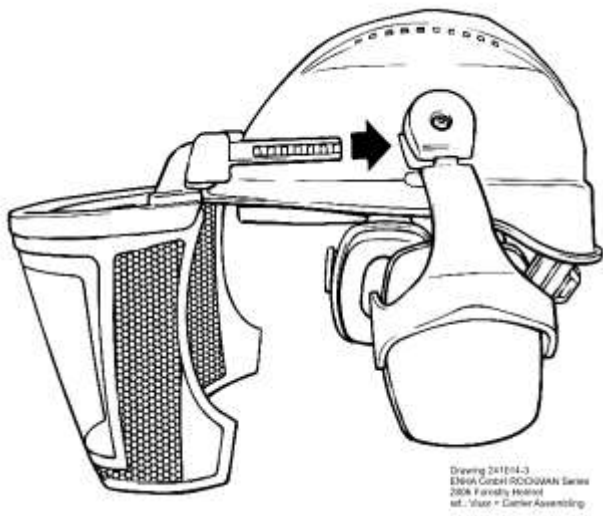


図 10



図 8

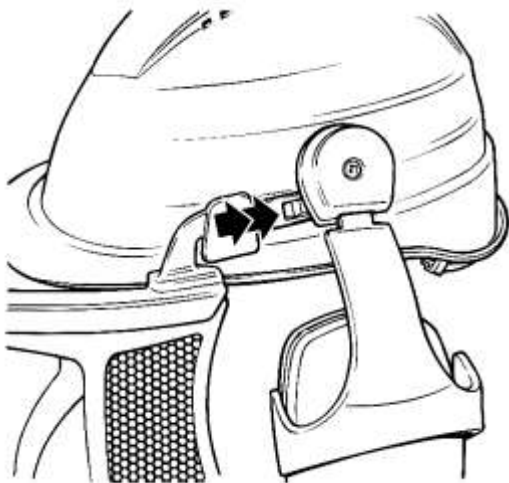


図 9

